

地中海クルーズ紀行(8)

サウサンプトンの書店に並ぶ3冊の「船の雑誌」に船ファンの層の厚みを感じる

2023-7-7 池田良穂

朝、サウサンプトンのクルーズ客船ターミナルの1つで「アンセム・オブ・ザ・シーズ」を下船しました。入国審査も、検疫も、税関検査もなく、ターミナルに降りてスーツケースを受け取ると、すぐにタクシーに乗ることができました。振り返ると、3週間のクルーズ中に一度もCIQはありませんでした。欧州ならではのことなのかもしれませんが、昨年12月に乗船したシンガポール発着のマレーシア、タイに寄港するクルーズでも同様でした。

ハイスのホテルに入った後、ハイスフェリーでサウサンプトンの町に向かい、港に並ぶ Regal Princess、Britannia、Anthem of the Seas を海上から撮影。ちょうど COSCO の大型コンテナ船が入港してきて、既に ONE の大型コンテナ船も停泊していたので、300m 近い長さの大型船がサウサンプトンの港内に 5 隻も停泊しているという状態になりました。クルーズ客船ファンであると共に、コンテナ船のファンでもある筆者にとっては嬉しいと同時に羨ましい光景でした。



サウサンプトンの港内に、大型船が並ぶ光景は壮観。左から順に、ONE の大型コンテナ船、P&O クルーズの「ブリタニア」、COSCO の大型コンテナ船、RCI の「アンセム・オブ・ザ・シーズ」です。



オーシャン・クルーズ・ターミナルにはプリンセスクルーズの「リーガル・プリンセス」が停泊していました。

ハイスフェリーを降りてから、サウサンプトンの市街地を散策。1軒の本屋に入ると、雑誌の棚に3冊の船の本が並んでいました。World Shipping SocietyのMarine Newsも入るとイギリスでは4冊もの船の月刊誌が発行されていることになります。日本は、いつの間にか「世界の艦船」だけしか船の趣味誌がなくなってしまったのとは大違いです。これもとても羨ましく思いました。イギリスには船のファンが4冊もの月刊誌を支えるだけいるのかと思うと層の厚さに驚きます。海運・造船共に英国を抜いて、世界でも有数の海事大国になった日本ですので、船のファンもぜひ増やしたいものです。

